

2-12 和歌山県有田川町「清水地域ランドスケープ再生戦略事業」

事業概要

総事業費	7,781千円
助成申請額	5,130千円
外部専門家	濱 博一 (株式会社アスリック 代表取締役) 矢部 佳宏 ((一社)BOOT 代表理事)

自治体概要

人口	□	26,325人 (住民基本台帳登録人口：令和2年1月1日)
面積	積	351.84km ²
人口密度	度	74.82人/km ²
標準財政規模		9,899,854千円 (平成30年度市町村別決算状況調査)
財政力指数		0.34 (平成30年度市町村別決算状況調査)
経常収支比率		93.0% (平成30年度市町村別決算状況調査)
担当課室		商工観光課

取組概要

事業開始時点

- 人口減少による地域経済活動の低下
- 少子高齢化による地域産業の衰退
- 観光客数の減少
- しみず温泉老朽化問題
- 外部専門家派遣事業 (短期診断) により、清水地域のまちづくり再検討の機運が高まる

外部専門家による支援

- 地域資源及び時代潮流による現状分析
- グランドデザインの方向性の整理
- グランドデザインのビジョンの検討
- 地域プランディングの検討
- 3つのプロジェクト (温泉リニューアル・移住ドミトリー・公園的まちづくり) の整理・アドバイス

事業終了時点 (成果)

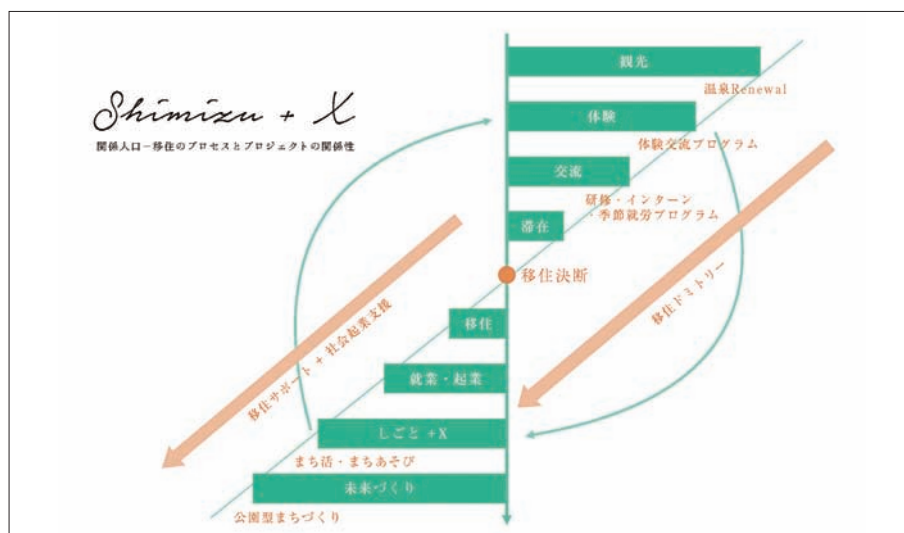
- 地域課題の整理
- 地域資源の分析
- 清水地域のグランドデザイン
- 地域住民が主体となった3つのプロジェクトが動き、具体的な検討に移行



清水地域のシンボル
『あらぎ島』(棚田)



公園的まちづくり
現地調査・ワークショップ



関係人口-移住のプロセスとプロジェクトの関係性

1 事業の背景と目的

a 事業の背景

清水地域は、2006年の3町（吉備町、金屋町、清水町）合併により誕生した有田川町の東部に位置する地域で、国の重要文化的景観・日本の棚田百選に選ばれている「あらぎ島」をはじめ、優れた自然環境や生産量日本一の「ぶどう山椒」等の農産物がある魅力にあふれた地域である。

しかし清水地区はいわゆる過疎地域で、合併後13年間で約38%の人口減や高齢化率53.7%という高齢化の進展による地域産業の衰退、生活基盤の弱体化、集落消滅の危機など、さまざまな課題に直面している。

主な産業は、稲作やぶどう山椒などの農業・林業であるが、高齢化・後継者不足や木材の価格下落等が原因で衰退が進行している。対策として、温泉や宿泊施設をはじめとする観光業を推進しているが、こちらのほうも陳腐化等による宿泊客減少を続けている。また、地域には小さな企業や福祉事業所がいくつかあるが、いずれも人材不足が課題となっており、地域全体が負の連鎖に陥っている。行政としても、合併後さまざまな振興策を模索していたが、総じて単発的なイベントが中心となっており、地域に持続的な経済循環を生むまでには至っていない。

このような状況の下、令和元年度に外部専門家派遣（短期診断）を実施し、外部専門家からいくつかの指摘事項や今後へのアドバイスを受けた。その提言を機に、温泉施設の老朽化対策を見据えながら、その周辺にある地域資源・文化・歴史を活用し、再度清水地域全体のランドスケープデザインの検討を行うことに至った。

b 事業の目的

最終的な目的は、移住・定住人口の増加であり、地域外からの移住・定住を実現するためには「縁・職・住」を整える必要がある。

まず、最初に何らかの「縁」がなければ先に進むことができない。このため、最も重視すべきは「縁」を結び紡ぐ仕掛けと仕組みを構築することである。これらにより、交流人口から関係人

北海道
利尻町北海道
厚賀町北海道
むかわ町福島県
磐梯町群馬県
睡林市群馬県
中之条町富山県
舟橋村長野県
小川村三重県
南伊勢町奈良県
吉野町和歌山県
広川町和歌山県
有田川町岡山県
真庭市香川県
三豊市愛媛県
内子町長崎県
波佐見町

口へ、関係人口から移住人口へと関係性を深化させる必要がある。

関係性を深化させる過程の入り口として重要な点は、その地域が持つ資源の価値を分かりやすく視覚化することである。地域資源の価値を説明的にならず、的確に表現し整えることは、移住・定住につながる縁を結び紡ぐために重要な一歩となると考えられる。

このため、地域全体を統一的なコンセプトで捉え、地域資源の価値を再定義するための再生ビジョンの策定と、それをより視覚化するランドスケープデザインの形成を目指す。

2 事業実施内容

a 地域再生ビジョン・ランドデザインの検討

地域の資源・資産を調査・発掘・整理する。そのうえで、温泉と複数の宿泊施設がある地域を中心に、清水地域全域のランドスケープデザインを検討。

b ターゲティングの検討・設定

aの検討結果を基に、地域全体あるいはそこに属する個別エリアについて、交流人口・関係人口を惹きつけ増加させるターゲット層・属性の明確化と設定。

c 地域での統一的なデザインコンセプト・テイストの検討

地域全体のランドデザインを踏まえ、具体的に視覚化するための基本的なデザインコンセプトやテイストを検討し、地域のあるべき姿を描く。

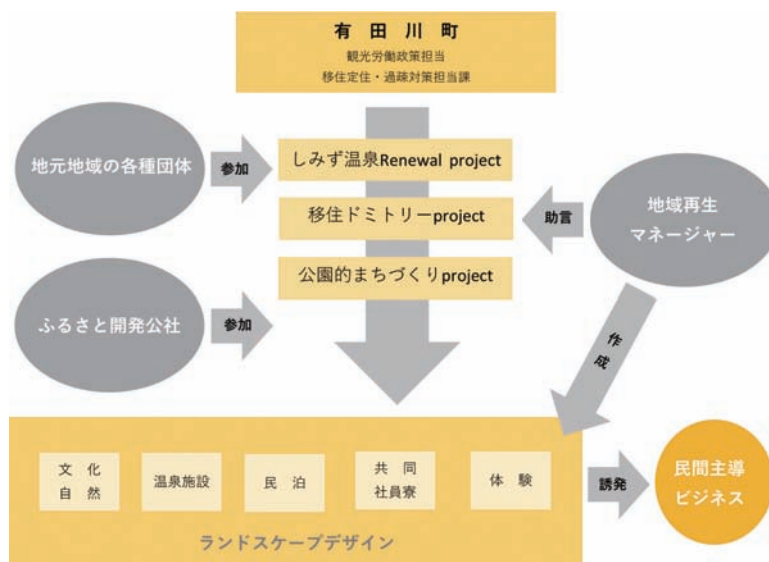
d 3つの主要プロジェクト

ランドデザイン検討と並行して実施する『しみず温泉リニューアル』『移住ドミトリー』『公園的まちづくり』の3つの主要プロジェクトの推進。

3 事業実施体制

a 事業実施体制の概要

事業実施体制図



体制の概要

有田川町と、各プロジェクトの実行主体である地元地域の団体（移住ドミトリー：地元事業者連合会、公園的まちづくり：子を持つお母さん世代の集まり、しみず温泉：しみず温泉検討委員会）、そして清水地域の観光施設全般を指定管理者として運営している（一財）有田川町ふるさと開発公社も加わり、外部専門家のアドバイスの下で本事業を進めた。

b 外部専門家の役割

整理した地域資源等から、ランドスケープデザインの手法によりグランドデザイン、地域ブランディングの検討を実施。また並行して進んでいく各プロジェクトへの助言や、各プロジェクトそのものがグランドデザインや地域ブランディングと整合性があるものとなるようサポートを実施した。



清水地域中心地
露地と水路のある風景



公園的まちづくりプロジェクトワークショップ

4

事業実施スケジュール

月	取 り 組 み 実 施 内 容	
6月	21～25日 24日	・地域資源の調査、整理 ・移住ドミトリープロジェクト会議
7月	13～16日 15日	・地域資源の調査、整理 ・移住ドミトリープロジェクト会議
8月	17～20日 18日 19日	・地域資源の調査、整理 ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議
9月	7～10日 7日 8日 9日	・地域資源の分析（ランドスケープ手法） ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・公園的まちづくりプロジェクト会議
10月	5～8日 7日 8日	・地域資源の分析（ランドスケープ手法） ・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議
11月	26～30日 27日 29日 30日	・地域資源の分析（ランドスケープ手法） ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・公園的まちづくりプロジェクト会議
12月	1～3日 18日	・ランドデザイン、地域ブランディングまとめ ・しみず温泉現地調査
1月	14日 21日 25日 28日 29日	・移住ドミトリープロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・ふるさと財団マネージャー報告会 ・移住ドミトリープロジェクト会議
2月	4日	・移住ドミトリープロジェクト会議

5 主な成果

a 地域再生ビジョン・地域ブランディングの検討

■現状（地域課題）分析

- ・住民からの要請により、地域課題分析、時代潮流分析を併せ検討を行った。

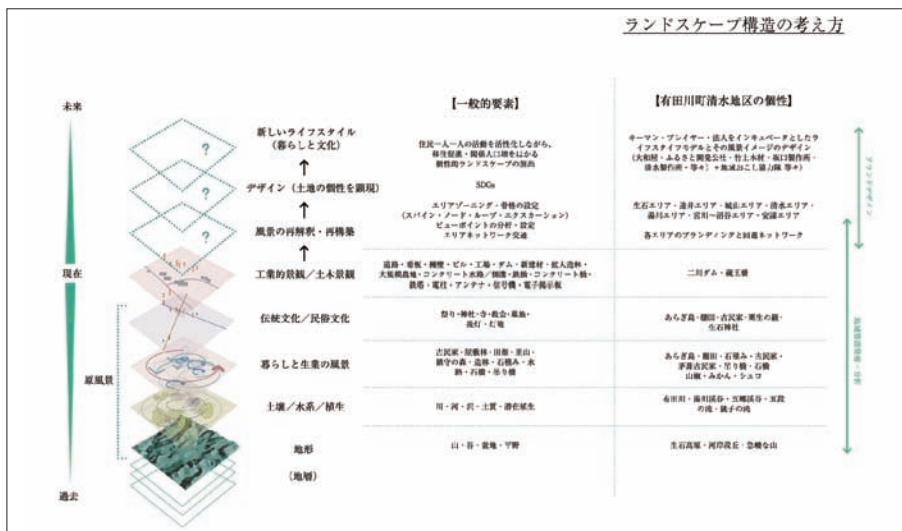
■地域資源の分析

- ・地域資源の分析をランドスケープの手法で実施。
 - 地域を象徴する文化的景観構成要素
 - 個性的な清水の露地空間
 - 地域景観に見られるカラーと素材

時代潮流を元に、地域課題と併せて検討した結果

- ①観光資源の体系化・連携性の強化
 - しみず温泉・あさぎり・スポーツパークなど、観光資源が個別分散
 - 地域の観光資源の体系化により一層の相互連携を図る必要がある
- ②移住・定住促進と移住者側のニーズとのシンクロ化
 - 移住の入り口は就業のみならず、インターン・体験・季節労働などのニーズとも併せて検討する必要がある
- ③人生のライフステージを考慮した統合的な環境整備
 - 移住時のみならず結婚・出産・子育てといったライフステージの変化にも的確に対応でき、「まち」としての豊かさが持続する環境整備を受益者である住民の参加・協働のまちづくりとして実現化する必要がある

ランドスケープ構造の考え方



- 北海道 利尻町
- 北海道 厚真町
- 北海道 むかわ町
- 福島県 磐梯町
- 群馬県 館林市
- 群馬県 中之条町
- 富山県 舟橋村
- 長野県 小川村
- 三重県 南伊勢町
- 奈良県 吉野町
- 和歌山県 広川町
- 和歌山県 有田川町
- 岡山県 真庭市
- 香川県 三豊市
- 愛媛県 内子町
- 長崎県 波佐見町

b ターゲティングの設定・検討

c 地域での統一的なデザインコンセプト・テイストの検討

上記の分析及び各プロジェクトの進展内容を考慮し、ランドデザインの検討を実施した。そこから地域ブランディング、またターゲティングをどのように検討していくか整理した。

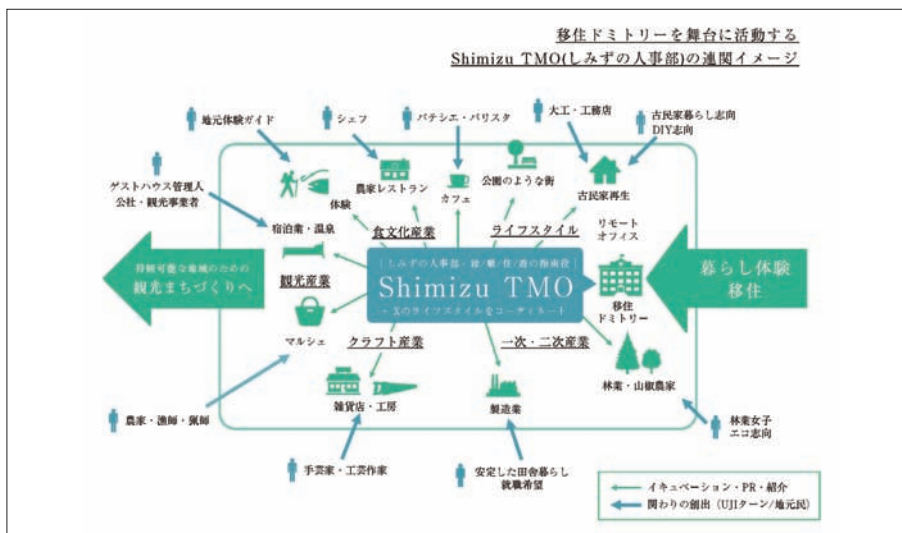


d 主要な3つのプロジェクト始動

しみず温泉 Renewal・移住ドミトリー・公園的まちづくりの3つのプロジェクトが進み、具体化されつつある。



しみず温泉 Renewal project



移住ドミトリー project



公園的まちづくり project

6 持続的発展へ向けた課題、今後の取り組み

■ビジョンの啓発

グランドビジョンに沿って、ランドスケープデザインに籠めた意図を啓発・浸透させていく。

■各プロジェクトの具体化・熟度アップに向けた活動・支援

・しみず温泉 Renewal

ビジョンとの整合性に留意しながらターゲットング・マーケティングを進め設計仕様を具体化しつつ、並行して適地の確定とリニューアルオープン後の運営・経営体制の検討と確立に向けたスタディを進める。

北海道
利尻町

北海道
厚真町

北海道
むかわ町

福島県
磐梯町

群馬県
館林市

群馬県
中之条町

富山県
舟橋村

長野県
小川村

三重県
南伊勢町

奈良県
吉野町

和歌山県
広川町

和歌山県
有田川町

岡山県
真庭市

香川県
三豊市

愛媛県
内子町

長崎県
波佐見町

・移住ドミトリー

再活用する廃校の現状を下に、ビジョンに沿って導入が必要と考えられる機能を整理するとともに、下記の諸事業の検討と具体化を図る必要がある。

[縁] 系事業

- ・体験交流プログラムの開発・試行・実施
- ・研修・インターン・季節就労などの短中期滞在の具体化
- ・移住プロセスの物心両面サポートの具体化

[職] 系事業

- ・雇用創造事業の具体化や、地元事業所との協働関係の構築
- ・新しい社会起業活動への支援体制の検討と具体化

[住] 系事業

- ・短中期滞在ならびに、移住者の仮住まい需要に対するドミトリー機能提供の具体化
- ・地元地域の空き家バンクの検討と具体化

・公園的まちづくり

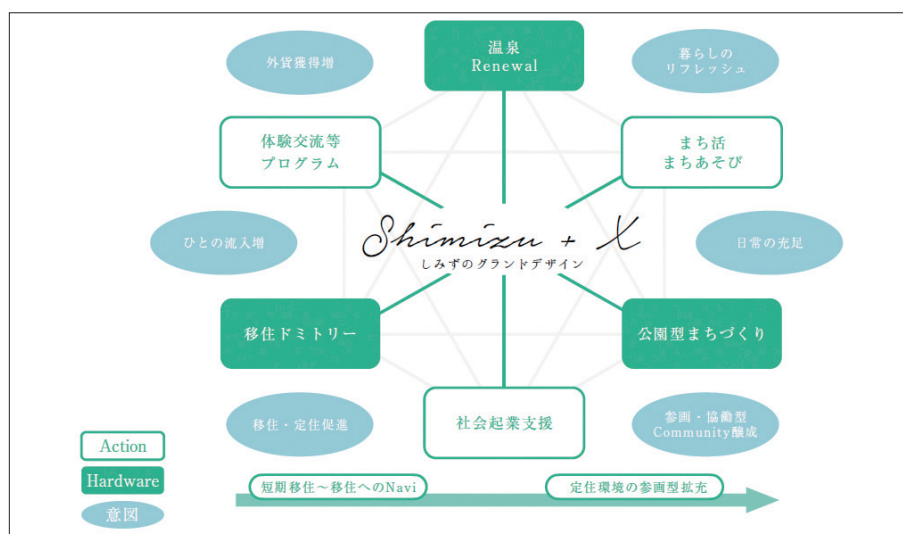
下記に例示するようなワークショップを通じて、住民に対して公園まちづくりのイメージ醸成と、求められる公園機能の具体化を図る。

[公園] 系 WS

- ・候補地を活用した公園遊び・活用 WS
- ・カフェなど派生する事業・機能の具体化 WS

[まちあそび] 系 WS

- ・路地や小水路などを活用したまち探検 WS、鬼ごっこ・かくれんぼ WS
- ・空き家を活用したワンデーカフェ・フリーマーケット WS
- ・昔の祭礼の復元イベント



7 外部専門家コメント

清水地域ランドスケープ再生戦略事業 始動



(株)アスリック 代表取締役 濱 博一

(一社)BOOT 代表理事 矢部 佳宏

取り組みの背景と事業概要

「有田みかん」の産地として有名な和歌山県有田川町は、近年ではポर्टランド流のまちづくりなどで知名度が高まっています。しかし、今回の事業対象地である清水地区(旧清水町)は、町全域を貫く有田川の上流に位置する山間地域であり、平成18年の合併以降、下流の旧吉備町や旧金屋町に移住する世帯が増え、人口が著しく減少。生産量日本一の「ぶどう山椒」や、重要な文化的景観・日本棚田百選に指定されている「あらぎ島」など潜在資源は多いものの、農林産業や観光産業による収益拡大、地域住民によるボトムアップ型の地域活性化と移住者・地域の担い手の獲得が大きな課題となっています。

課題、及びそれに対するアプローチ

地元からの要請として、「ぶどう山椒」農家の高齢化と後継者不足対策、地元企業からは後継者が集まる魅力の発信と、移住者が孤独を感じないような寮の整備を求める声、子育て世代の女性からは地区の中心部に公園を設置して欲しいという要望、そして観光の目玉である温泉施設のリニューアルの計画という大きく3つのプロジェクトがありました。それらを受けて、それぞれのプロジェクトを線としてつなげ、面的に清水地域に暮らす価値を高めるブランディングをすること、そして、地域づくりに関わる住民や移住者が継続的に生まれる生態系を構築していくことが重要であると確認し、まずは長期的ブランディングの軸となるコンセプトを明確にしたグランドデザインをつくるため、ランドスケープの視点から価値の再評価を行いました。そして、地域住民が自ら地域再生に取り組む雰囲気醸成しながら、プレイヤーの発掘と、地域の未来に対する共通課題意識が持てるよう、ワークショップや議論・街歩きなどを重ねてきました。

取り組みを通じて得られた成果

移住ドミトリーでは、地域住民が自らの地域の価値を再認識し、それを地元で育つ子供たちや地域外の人に伝える→地域のファンが増え、関係人口が増加する→関係人口から移住者が始まる→移住者による発信からさらにファンが増える、という生態系を生み出すことが重要であり、「しみずの人事部」的なタウンマネジメントと組織づくりを民間のステイクホルダーが深く関わりながら行っていくというコンセンサスが得られました。

公園的まちづくりでは、露地が特徴的なランドスケープ特性を生かして、まち全体を公園として捉える意識へと視点を変えてワークショップを開催してきたところ、若者主体で空き家改修によるコミュニティ拠点整備計画が進む状態にまで雰囲気が醸成できてきました。温泉のリニューアルについては、ワークショップを開催することにより、地域が支える温泉施設としての考え方を共有しながら、収益を改善し、地域の雇用を支え、ランドマークとして集客の核となり、地域の文化アイデンティティを継承する役割を果たす温泉施設について検討を進めています。

今後は、グランドデザインに沿いつつ、地域住民とプロセスを共有しながら各プロジェクトにおけるマーケティングやターゲティングなどを含めた細かい詰めを進めていきます。

北海道
利尻町北海道
厚賀町北海道
むかわ町福島県
磐梯町群馬県
睡林地群馬県
中之条町富山県
舟橋村長野県
小川村三重県
南伊勢町奈良県
吉野町和歌山県
広川町和歌山県
有田川町岡山県
真庭市香川県
三豊市愛媛県
内子町長崎県
波佐見町

2-11 和歌山県有田川町「清水地域ランドスケープ再生戦略事業」

事業概要

総事業費	7,329千円
助成申請額	4,886千円
外部専門家	濱 博一（株式会社アスリック 代表取締役） 矢部 佳宏（一般社団法人BOOT 代表理事） 古田 大泉（JISSEN.CO）

自治体概要

人口	□	26,104人（住民基本台帳登録人口：令和3年1月1日）
面積	積	351.84km ²
人口密度		74.19人/km ²
標準財政規模		9,830,401千円（令和元年度市町村別決算状況調）
財政力指数		0.34（令和元年度市町村別決算状況調）
経常収支比率		93.1%（令和元年度市町村別決算状況調）
担当課室		商工観光課

取組概要

事業開始時点

- 人口減少による地域経済活動の低下
- 少子高齢化による地域産業の衰退
- 観光客数の減少
- しみず温泉老朽化問題
- 外部専門家派遣事業（短期診断）による清水地域のまちづくり再検討の機運が高まる
- 清水地域のランドデザイン作成

外部専門家による支援

- 清水地域のランドデザインを基に、ハード事業の具体化検討
- 地域資源を活用したソフト事業の検討
- 住民の自立的活動への火付けと火種つくりの支援

事業終了時点（成果）

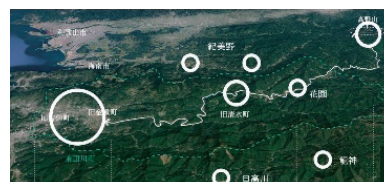
- ハード事業の具体化として、基本構想（マーケティング戦略）を作成
- 諸施設間の機能分担と連携の整理
- 観光周遊させる広域的エリアの整理
- 派生プロジェクトの発生
- 棚田（あらぎ島）アイス商品化



清水地域のシンボル『あらぎ島』



ふたがわ寮設置・運営について検討



観光周遊させる広域的エリア検討図

1 事業の背景と目的

a 事業の背景

当該申請の清水地域は、2006年の3町（吉備町、金屋町、清水町）合併により誕生した有田川町の東部に位置する地域で、国の重要文化的景観・日本の棚田百選に選ばれている「あらぎ島」をはじめ、優れた自然環境や生産量日本一の「ぶどう山椒」等の農産物がある魅力にあふれた地域である。

しかし清水地区はいわゆる過疎地域で、合併後14年間で約41%の人口減や高齢化率54.4%という高齢化の進展による地域産業の衰退、生活基盤の弱体化、集落消滅の危機など、さまざまな課題に直面している。

主な産業は、稲作やぶどう山椒などの農業・林業であるが、高齢化・後継者不足や木材の価格下落等が原因で、他の地域と同じように衰退の一途をたどっている。一方策として、温泉や宿泊施設をはじめとする観光業を行っているが、こちらのほうも陳腐化等による宿泊客減少を続けている（なお、この地域の主な観光施設は一般財団法人有田川町ふるさと開発公社が指定管理を受け運営している）。また、地域には小さな企業や福祉事業所がいくつかあるが、いずれも人材不足が課題となっており、地域全体が負の連鎖に陥っている。

行政としても、合併後さまざまな振興策を模索していたが、総じて単発的なイベントが中心となっており、地域に持続的な経済循環を生むまでには至っていない。

このような状況のなか、当町では一昨年度、貴財団の外部専門家派遣（短期診断）を、昨年度においても外部専門家活用助成事業を活用し、外部専門家による現地調査や関係者へのヒアリングを実施させていただいたところ、いくつかの指摘事項やアドバイスを受け、今後重点的に取り組むべきプロジェクトを絞り込むことができた。そこで昨年度実施した事業の成果であるランドデザイン等をもとに、引き続きプロジェクトの具体化をすすめるため申請に至った。

b 事業の目的

地域再生の最終的な目的は、移住・定住人口の増加である。地域外の方が移住・定住に至るには「縁・職・住」が整う必要がある。

そして、最初に何らかの「縁」がなければそこから先に進むことができない。このため、地域再生を具体化するに当たって最も重視すべきは「縁」を結び紡ぐ仕掛けと仕組みを構築することである。これらにより、交流人口から関係人口へ、関係人口から移住人口へと関係性を深化させる必要がある。

関係性を深化させる過程の入り口として重要な点は、その地域が持つ資源の価値を分かりやすく視覚化することである。景観十年・風景百年・風土千年という言葉があるように、景観として視覚に捉えられる光景を通して、その土地の暮らしぶり・歴史性・文化性も読み取ることができる。地域資源の価値を説明的にならず、的確に表現し整えることは、移住・定住につながるご縁を結び紡ぐために重要な一歩となると考えられる。

このため、地域全体を統一的なコンセプトで捉え、地域資源の価値を再定義するための再生ビジョンの策定と、それをより視覚化するランドスケープデザインを重視する必要がある。

北海道
厚岸町福島県
郡山市福島県
磐梯町栃木県
下野市群馬県
中之条町東京都
あきる野市石川県
宝達志水町福井県
越前町三重県
南伊勢町大阪府
豊本町和歌山県
有田川町広島県
府中市徳島県
美まよし町長崎県
雲仙市長崎県
波佐見町鹿児島県
南大隅町鹿児島県
北利根町

2

事業実施内容

a しみず温泉の検討・設計

令和2年度より検討しているしみず温泉の今後について、清水地域の観光の中心的存在であることが再確認され、作成したグランドデザインに基づきマーケティング戦略をたて、よりお客さんをお呼べる施設となるべく、設計・デザインをワークショップ等実施し、具体的に検討した。

b 移住インキュベーションセンターの検討・設計

移住インキュベーションセンター及びドミトリーの整備をめざし、基本設計への仕様を立案し、地域住民との協働事業として地元の方々を含めワークショップを実施し、設計・デザイン等を検討した。

c 清水地区公園的まちづくりの検討

子どもをもつお母さんたちが中心となって、子どもとその親世代が集える広場が必要という要望から始まったプロジェクト。清水地域の中心市街地全体を公園とみなして、みんなが集え、楽しめる『場』を創るプロジェクトとして実施。運営組織のあり方、福祉事業者との協働、イベント等での活用方法等検討を繰り返し行った。

d 諸施設間の機能分担と連携の整理・検討

施設整備・事業開発のスケジュールと、移住・定住化を目指した関係性の深化プロセス（地域再生プロセス）との調整を図り、施設単体での整備効果に留まらない施設間連携・有機的波及効果を持たせるための検討を行った。

e 具体的な事業開発

交流人口から関係人口へ、関係人口から移住人口へと紡ぐために、就農体験なども含めたフィールドワーク的な体験プログラム・交流プログラムなどのソフト事業の開発を検討した。

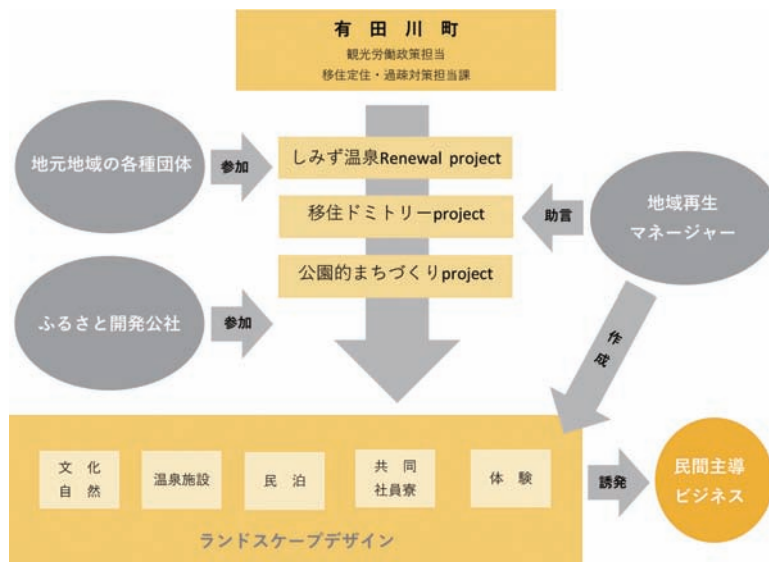
f 起業支援策のシステム化検討

長期的に持続的な「縁・職・住」の連関システムの構築を目指し、派生的に拡がる「職」の開発・起業支援の体制を地域に根付かせるために必要な事項を検討した。

3 事業実施体制

a 事業実施体制の概要

事業実施体制図



体制の概要

有田川町と、各プロジェクトの実行主体である地元地域の団体（移住ドミトリー：地元事業者連合会、公園的まちづくり：子を持つお母さん世代の集まり、しみず温泉：しみず温泉検討委員会）、そして清水地域の観光施設全般を指定管理者として運営している（一財）有田川町ふるさと開発公社も加わり、地域再生マネージャーのアドバイスのもと本事業を進めた。

b 外部専門家の役割

各プロジェクトへの助言と、各プロジェクトからの考えや地域資源を整理し、昨年度実施した事業の成果であるランドデザイン等をもとに、引き続きプロジェクトの具体化へのアドバイスを実施。またそれらが長期的に持続的な「縁・職・住」の連携が行われるシステム構築を目指し、地域に基本的な考え方等を根付かせるノウハウ移転を実施した。

北海道
厚真町福島県
郡山市福島県
磐梯町栃木県
下野市群馬県
中之条町東京都
あきる野市石川県
宝達志水町福井県
越前町三重県
南伊勢町大阪府
島本町和歌山県
有田川町広島県
府中市徳島県
東みよし町長崎県
雲仙市長崎県
波佐見町鹿児島県
南大隅町鹿児島県
鹿嶋町北利海
道町

4

事業実施スケジュール

月	取 り 組 み 実 施 内 容	
4月	13～15日 14日	・地域資源の調査、整理 ・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議
5月	18日	・公園的まちづくりプロジェクト会議（オンライン会議） ・移住ドミトリープロジェクト会議（オンライン会議）
6月	5～8日 6日 7日 8日	・観光周遊させる広域的エリアの検討及び地域資源の調査、整理 ・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議
7月	19～22日 19日 20日 21日	・観光周遊させる広域的エリアの整理 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・派生プロジェクト（遠井地区関係）相談・検討会議
8月	19～21日 19日 20日 21日	・施設間機能の連携検討 ・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・派生プロジェクト（遠井地区関係）相談・検討会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議
9月	15、17日 15日 17日	・施設間機能の連携検討 ・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議
10月	18日 20日	・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・移住ドミトリープロジェクト会議 ・移住受け入れ態勢検討
11月	8日 9日	・移住ドミトリープロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議 ・公園的まちづくりプロジェクト会議
12月	14日 15日	・移住ドミトリープロジェクト会議 ・若者の流れづくりとして運営候補者視察交流イベント実施 ・公園的まちづくりプロジェクト会議 ・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議
1月	25～26日	・しみず温泉 Renewal プロジェクト会議

5 主な成果

a しみず温泉の再生

温泉施設としての在り方とマーケティング的な条件整理を実施。また施設設計におけるこれらの考え方を反映させるプロデュース的な取り組みを行った。

シーダー層（ペルソナ）の設定

吉田 紀子さん (43歳)
 ・大塚製薬和歌山支店
 ・温泉マニア社員
 ・年収400万円、世帯収入600万円
 ・管理職のポジション有り
 ・約3000坪の「なかの森温泉」有り
 ・まどろさん、中野さんと中学同級生
 ・趣味は読書

山崎 勉さん (55歳)
 ・大塚製薬非社員
 ・正社員（中管理職）
 ・年収400万円（うちこれ以上は上がらない）
 ・管理職有
 ・妻が専業主婦
 ・妻が専業主婦で収入無し、このため子育てが難しい
 ・ポイントカードが複数あり、車検も済ませ、たまに旅行

この層のニーズを捉え、温泉地を再訪させ、新しい温泉施設を提案し、その魅力を伝える。また、この層のニーズを捉え、温泉地を再訪させ、新しい温泉施設を提案し、その魅力を伝える。

メインとなるシーダー層のペルソナは、大塚製薬（和歌山）の元社員と元社員。

マーケティング手法の活用

b 移住インキュベーションセンターの設立

「縁・職・住」ニーズに対する一体的・関連的対応体制を整える施設として基本構想を作成。また運営体制の検討及び運営者募集に際して必要な事業イメージ及び整理した地域資源の表現デザインを実施。

①活用する遊休施設の検討
 →郡山南小学校会に決定

②既存利用団体との調整・基本ゾーニング
 →ゾーニング案の合意形成

インキュベーション施設の検討の様子

c 公園的まちづくりの推進

地元住民に公園設置が「まち」の再生につながるという可能性が認識され、住民の自立的な意識が発生してきた。また新たな公園を住民主体で管理する方法についての検討が重ねられた。

公園利用者の想定

Step1
 地域住民：子供や高齢者、福祉施設利用者

Step2
 地域のイベント会場

Step3
 地域の魅力を伝える場

施設利用のイメージ

管理費：管理費
 予約制貸し施設（カフェ可能）
 思い上がりがある場合には、公園の管理費として20%

お祭りでの利用
 マルシェ利用
 ワークショップ利用
 シェアキッチン利用

公園コンセプト

d 広域的に観光周遊させるエリアの整理

既に広く知られている高野山に縁ある、まだ魅力が十分に伝わっていない小さな魅力が点在する周辺エリアとともに、新たな1つの観光エリアとして設定し、周辺エリア全体を一体化させる戦略が必要であると再認識し、次年度以降の目標を設定した。

「裏高野エリア」とは
 高野山に縁のある、南西部一帯の山間地
 また魅力が十分伝わっていない、小さな魅力が点在しているエリア

高野山エリア
 高野山-高野山エリア
 高野山-高野山エリア
 高野山-高野山エリア
 高野山-高野山エリア
 高野山-高野山エリア

町域→エリア全体で魅力コンテンツを一体化させる戦略

観光周遊エリアの検討

e その他（派生した事業）

あらぎ島の米生産者と棚田でアイスを作る事業者とのマッチングが図られ、地元お土産品となり、また、棚田維持を応援するコンテンツの1つとなる「あらぎ島（棚田）アイス」が誕生した。公園的まちづくりのメンバーが空き家古民家を再生し、若者の集える場所（ジム）を開設した。このように、本事業実施過程において地域資源の価値と魅力を再認識した地元の方が自発的に地域再生のプロジェクトを実施し始めた。



空き家再生作業の様子



地域再生プロジェクトの様子

6 持続的発展へ向けた課題、今後の取り組み

■新しみず温泉（観光関係）

しみず温泉のリニューアルに伴い、観光施設全体の関係性が発揮できる体制準備が必要となる。そのために今後は下記事項について、温泉リニューアルを効果的に、相乗的に地域全体に成果が表れるように準備を行う。

■移住ドミトリー

今年度に引き続き移住ドミトリー運営法人が取り組むべき下記の諸事業の検討と具体化を図る必要がある。またできる限り早い段階において運営スタッフを雇い入れ、そのスタッフとともに本事業を立ち上げ（作り上げ）ていくことが、プロジェクト成功への足掛かりとなる。

■公園的まちづくり

候補地が決定したため、その候補地の基本設計等住民と一緒に検討し基本設計を作成し、今年度に引き続きワークショップを通じて、住民に対して公園まちづくりのイメージ醸成と、求められる公園機能の具体化を図る必要がある。

7 外部専門家コメント

ブランドデザインをプロジェクトへつなぐ



株式会社アスリック
代表取締役
濱 博一



一般社団法人BOOT
代表理事
矢部 佳宏



JISSEN.CO
古田 大泉

取組みの背景と事業概要

和歌山県有田川町は、「有田みかん」の産地として有名であるが、今回の事業対象地である清水地区（旧清水町）は、町全域を貫く有田川の上流に位置する山間地域であり、平成の合併以降、下流の旧吉備町や旧金屋町への移住が増え、人口が著しく減少。生産量日本一の「ぶどう山椒」や、重要文化的景観・日本棚田百選・日本農業遺産に指定・認定されている「あらぎ島」など潜在資源は多いものの、農林産業や観光産業による収益拡大、地域住民によるボトムアップ型の地域活性化と移住者・地域の担い手の獲得が大きな課題となっている。

課題、及びそれに対するアプローチ

昨年度、地元からの要請をもとにしつつ、地域住民が自ら地域再生に取り組む機運を醸成しながら、地域の未来に対する共通課題意識が持てるよう、ワークショップや議論・街歩きなどを重ねる中で、ランドデザインを提案したが、それに加えて地域の価値を知り尽くして山・川で遊びと暮らしを融合させている住民を再評価し、地域ブランディングの軸となるコンセプトを「遊ぶように暮らす Shimizu+X」と明確にした。

今年度は、それをベースに、地域ブランディングを醸成する第一歩として、具体的なプロジェクトを始動させる活動を行った。しみず温泉のリニューアルについては、和歌山県内の温泉との比較検討をベースに温泉市場をセグメントし、同温泉のポジショニングを明確化した上で、想定されるターゲット層に対して先導的に利用・口コミなどをしてもらおうシーダー層のペルソナを設定するなど、STPマーケティング手法を導入して基本的な枠組みを構築し、建築設計への反映・アドバイスした。

山間地故に、新卒就業者の住・生活環境の課題を解決し、同時に新しい体験交流プログラムを開発・起業化するインキュベーション機能を併せ持たせる「ふたがわ寮（移住ドミトリー）」では、関係者間の調整と設計へのアドバイスのみならず、事業計画・プレイヤー候補者との意識合わせなどソフト面でのフォローに注力した。

子育て世代の女性から長年寄せられていた地区中心部への公園設置では、地区全体も巻き込んで「まち遊び」や「川遊び」などの体験の舞台とするなど、公園の基本的な使い方のイメージの具体化を丁寧に重ねながら、適地候補を数案に絞り、用地取得の下調整などを関係者をお願いした。

取組みを通じて得られた成果

新・しみず温泉は、リニューアルのための基本的な設計を終え、最終的な地元調整を踏まえ、実施設計・施工段階へと移行していく予定で、今後、店作りとしての暖簾など各種デザイン、スタッフのトレーニング、産品開発などの新開業を備えたソフト的なフォローアップに取り組む必要がある。ふたがわ寮は、運営形態の枠組み・組織形態について関係者の合意が図られ、プレイヤーの公募・地元受け入れ体制の具体化を図る段階に至っている。今後は、「しみずの人事部」的なタウンマネジメント人材と組織づくり、事業開発を具体化する重要な段階に入る。公園のまちづくりでは、最適と考えられていた場所の所有者に基本的な同意を頂くことができ、用地取得を経て、住民参加のワークショップなどを通じて具体的な整備を進めていく。

引き続き、ランドデザインをベースとしたそれぞれのプロジェクトを推進し、軌道に乗せられるよう、きめこまやかなアドバイスを重ねていく必要があると考えている。

北海道
厚岸町福島県
郡山市福島県
磐梯町栃木県
下野市群馬県
中之条町東京都
あきる野市石川県
宝達志水町福井県
越前町三重県
南伊勢町大阪府
豊本町和歌山県
有田川町広島県
府中市徳島県
美まよし町長崎県
雲仙市長崎県
波佐見町鹿児島県
南大隅町鹿児島県
北利根町鹿児島県
北利根町鹿児島県
北利根町